

平成30年度 小平市立小平第四小学校 学校評価報告書

学校教育目標

○健康な子 ◎考える子 ○やさしい子 ○おこなう子

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 みんなの笑顔が輝く学校

【目指す児童像】 ■健康な子:生活リズムを整え、気持ちのよい挨拶・返事ができる子 ■考える子:課題解決に向けて、主体的・対話的に学ぶ子 ■やさしい子:自分の大切さとともに他の人の大切さを認める子 ■おこなう子:目標をもち、主体的に行動する子

【目指す教師像】 ■健康な教師 明るく、元気で前向きな教師 ■考える教師 授業力、児童理解力、豊かな人間力を磨くために、絶えず自己研鑽に励む教師 ■やさしい教師 児童への愛情を十分に注ぎ、職務を全うできる教師 ■おこなう教師 同僚、保護者、地域と協働し、子どものために全力を発揮できる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

保護者や地域によるコミュニティ・スクールの認識、及び、小・中連携教育の取組についての理解が高まりつつあるが、義務教育9年間を見通した子どもへの健全育成、学力向上を目指した教育活動を充実させることはできなかった。今後は、地域の教育力を生かした体験活動や奉仕活動を充実させ、健全育成及び学力向上にさらに努める。

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 課題と対策 | 第2回評価 | | 学校関係者評価 | 課題と次年度以降の対策 |
|----------|---|-------|------|--|-------|------|---|--|
| | | 努力目標 | 成果目標 | | 努力目標 | 成果目標 | | |
| 学力向上 | 全教員が、校外の研修会や研究発表会に年間1回以上参加し、学んできたことを校内の教員に報告するとともに、授業改善に生かす。 | 3 | 2 | 夏季休業中に全教職員が研修会に参加し、授業改善に役立っている。今後は報告書を作成したり、学んだことを職員会議等で報告するなど、各自の本校への還元方法を工夫させていく。 | 4 | 4 | 全教員が主体的に校外の研修に参加し、授業改善に取り組んでいる。引き続き、学力向上に向けた授業改善に期待する。 | 新学習指導要領の移行措置期間として、それぞれの教科担当が主体的に研修に参加し、研修成果を校内に還元することができた。今後は、若手教員の育成や校務分掌の引き継ぎ等を勘案した、定期的な伝達研修を設定していく。 |
| | 全教員が、児童の主体的、対話的で深い学びが実現できる授業を目指した提案授業を一人年間1回以上公開する。 | 2 | 2 | 校内研究会だけでなく、管理職授業観察、指導教諭模範授業、教科等研究会研究授業、若手教員育成研修、教師道場部員公開授業等、全員が様々な機会に授業公開を行った。今後も研究主題に沿った提案授業を公開していく。 | 4 | 3 | 小平市教育委員会研究推進校としての2年間の成果が見られる。新学習指導要領完全実施に向け、提案授業の継続を期待する。 | 研究発表会実施に向けた提案授業についての議論は進んだが、個々の教員が新学習指導要領の基本理念や、「主体的・対話的で深い学び」についての理解をさらに深め、保護者に伝えていく活動が不十分であった。「社会に開かれた教育課程」について、保護者・地域とともに考える機会を意図的に設定していく。 |
| 健全育成 | 代表委員会を中心とした挨拶プロジェクトを定期的に組織する。また、「四小スタンダード」について自己評価を学期末に行い主体的な取組を促す。 | 2 | 2 | 代表委員による主体的な「挨拶運動」が展開された。今後は、児童が当事者意識をもって、挨拶や四小スタンダードを実行できるよう、振り返りを充実させていく。 | 4 | 3 | 代表委員会を中心とした挨拶プロジェクトを学期に1回実施することで定着しつつあるが、挨拶ができない児童が多い。 | 挨拶やその他の学校のルール定めた「四小スタンダード」について自己評価を実施することで、学級経営に生かすことができた。今後は、各学年や全体の傾向を把握・分析する活動を組織的にを行い、保護者・地域に成果や課題を数値等で分かりやすく伝えていく。 |
| | 定期的ないじめ調査や高学年のSCによる全員面接を行い、実態を把握し指導に生かす。また、児童個々が活躍できる機会を多く設ける。 | 3 | 3 | スクールカウンセラーによる5年生全員面接を実施した。生活指導夕会では、スクールカウンセラー、特別支援教室職員と児童の健全育成に係る情報を共有した。今後も組織的な指導を行い、児童の活躍の機会を設定するとともに、問題行動の未然防止に努める。 | 4 | 3 | いじめが発生した後に、組織的に早期解決を図っている。毎学期全学級実施しているいじめ防止に向けた道徳の授業も効果的である。 | 小平市いじめ防止基本方針(平成30年6月改定)に則り、本校の平成31年度いじめ防止基本方針を改定した。とくに、児童がいじめを訴えやすくするための工夫や、教員に相談しやすい場を設定したり、学校いじめ対策委員会の存在を周知したりする活動を組織的に対応していく。 |
| 地域コミュニティ | 学校経営協議会において、児童の健全育成、学力向上についてプロジェクト会議を行い、具体的方策を検討・実施する。 | 3 | 4 | 学力向上部会として、今年度プログラミング教育に係る取組を実施した。また、四小寺子屋を継続して実施している。健全育成部会は、児童の課題である挨拶を改善するための取組を検討していく。 | 4 | 4 | 学力向上部会は、四小寺子屋、プログラミング体験を実施した。健全育成部会は、3日間の挨拶運動を実施した。 | 学校経営協議会におけるプロジェクト会議を通して、学校の要望に応じた具体的な方策を検討・実施することができた。今後は、学校経営協議会による支援活動についての広報、啓発活動に取り組むとともに、支援に参加できる人材の拡充を目指していく。 |
| | 各学年の地域連携教育活動(玉川上水学習・にじいろひろば・お仕事体験等)を充実させる。 | 2 | 3 | 学習支援者と児童との対話の機会を意図的に設定し、地域連携教育が充実してきた。今後は、学校は子どもに付けたい力を明確にし、地域の方との連携が活きる授業計画を進めていく。 | 4 | 4 | 地域と連携した授業を公開したり、学習成果を発表したりする機会が多く、多くの保護者から認められている。 | 保護者・地域から高評価を得ている。しかしながら、本校の教育活動や地域連携教育による学習成果を、学習支援者に伝える活動が不十分であった。学校は、本活動を通して児童に身に付けさせたい力を明確に示すなど、学校と学習支援者が同じ目的に向かって協働していく仕組みや指導計画の見直しを行っていく。 |
| 小・中連携教育 | 小・中学校の教員同士の交流及び児童・生徒との直接交流の機会を設定し、相互理解を図る。 | 2 | 2 | 小・中連携の日だけでなく、運動会への応援や小学生の部活動体験へ応援など、小・中間の教員の交流が増えてきた。今後は小・中学校間の授業参観の機会を計画していく。 | 2 | 2 | 児童・生徒の交流や、教員同士の合同研究会の実施については把握することができたが、回数に限られているため当事者が主体的に取り組んだ活動であったかは評価しがたい。 | 小・中学校の教員が日常的に情報を共有できるよう、小・中連携教育推進分科会構成を再検討する。次年度については、①学級力向上プロジェクト推進部②児童会・生徒会連携推進部③学力・体力調査分析推進部④健全育成推進部の4つを検討している。 |
| | 第四中学校生徒と児童との直接交流の機会を設け、中学校生活への期待感を高めさせる。 | 2 | 3 | 夏季休業中の部活動体験は、児童にとって中学校生活への期待をもたせる体験となった。本校に職場体験にきた四中生は、学校行事を参観し児童と良い関係を継続している。今後も児童・生徒間の交流の機会を設定していく。 | 2 | 3 | | 夏休みの部活動体験や2月の体験入学を通して、6年児童は中学校生活への期待感を高めることができた。また、中学校の職場体験で実習を行った中学生の立派な態度は小学生にとっては手本となった。児童・生徒同士の直接的な交流の機会は今後も充実させていく。 |
| 健康づくり | 月曜日の朝遊びや、休み時間における外遊びの励行、体力アップチャレンジ月間(縄跳び、持久走)の取組を充実させる。 | 2 | 3 | 縄跳びチャレンジは、どの学級も記録を更新させることができた。しかし、外遊びの励行については不十分である。体力アップチャレンジ月間とおとして児童の外遊びを推進していく。 | 2 | 3 | 体力向上に向けた活動が実施できているが、学年差があるので全学級の体力向上に向けた取組の定着を期待する。 | 体力チャレンジアップ月間では、児童に学習カードを配布することで、体力向上を意識させることができた。大縄は、8割の学級が目標を達成した。今後は、学習カードの学年目標について検討していく。 |
| | 学級指導、保健の授業で「生活シャキットカード」を活用するなど、自己の日常生活を振り返る習慣を身に付けさせる。 | 2 | 3 | 「生活シャキットカード」を活用することは、児童の生活習慣を振り返る機会となっている。今後も継続するとともに、保健便りも充実させ家庭への啓発活動に努める。 | 3 | 4 | 保健だよりや「生活シャキットカード」の活用、生活目標の振り返りによって、細やかな指導ができていく。 | 今年度2学期から実施した、学級ごとの生活指導月目標の振り返りシートに効果が見られた。児童も担任も生活目標を意識して活動することで、健康づくりのみならず落ち着いた生活習慣の醸成につながっている。今後も継続していく。 |